

201034008B

厚生労働科学研究費補助金  
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業

妊婦及び授乳婦に係る臨床及び非臨床のデータに基づき、  
医療品の催奇形性リスクの評価見直しに関する研究  
(H20 - 医薬 - 一般 - 013)

平成 20 年度～ 22 年度 総合研究報告書

研究代表者 吉川 裕之

筑波大学・大学院人間総合科学研究科  
婦人周産期医学 教授

平成 23(2011)年 3 月

目 次

I. 総合研究報告

妊婦及び授乳婦に係る臨床及び非臨床のデータに基づき、  
医薬品の催奇形性リスクの評価見直しに関する研究----- 1  
吉川 裕之

II. 研究成果の刊行に関する一覧表 ----- 26

III. 研究成果の刊行物・別刷 ----- 28

IV. SEA-U分類(最終版) ----- 265

厚生労働科学研究費補助金  
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)  
総合研究報告書

妊婦及び授乳婦に係る臨床及び非臨床のデータに基づき、  
医薬品の催奇形性リスクの評価見直しに関する研究

研究代表者 吉川裕之 筑波大学大学院人間総合科学研究科・教授

研究要旨

妊娠女性・授乳中の女性に使用される医薬品の臨床及び非臨床データから催奇形性のリスクを評価する際の基準を検討するとともに、医薬品の添付文書における記載等の情報提供の指針ともなり得る、より一般的かつ詳細で、さらに臨床的対応の原則的指針にも結びつくような日本版薬剤胎児危険度分類基準の確立に向けて、我々が昨年度までに提唱した SEA 分類をより明快で普遍性を持った分類に発展、完成させることを目的に研究を遂行した。

その結果、SEA-U 分類（最終版）を完成させることができた。さらに、本 SEA-U 分類（最終版）にガイドライン化に向けた分類の手引きを添えることで、今後の普及を見据えた内容とすることができた。有用性、有益性を Utility (U 分類) として加え、総合評価することにした。そこで、最終版としては SEA-U 分類と称することとした。

本 SEA-U 分類（最終版）は、新たな日本版薬剤胎児危険度分類基準として今後の普及が望まれる。

研究分担者

**三橋 直樹**  
順天堂大学医学部  
産婦人科・教授

**生水 真紀夫**  
千葉大学大学院医学研究院  
生殖機能病態学・教授

**江馬 眞**  
産業技術総合研究所  
安全科学研究部門・招聘研究員

**北川 浩明**  
虎の門病院  
産婦人科・部長

**林 昌洋**  
虎の門病院  
薬剤部・部長

**濱田 洋実**  
筑波大学大学院  
人間総合科学研究科  
産婦人科・准教授

**佐藤 信範**  
千葉大学大学院薬学研究院  
臨床教育学・教授

**村島 温子**  
国立成育医療研究センター  
母性医療診療部・部長

**水上 尚典**  
北海道大学大学院医学研究科  
産科生殖医学分野・教授

## A. 研究目的

本研究の最終的な目的は、妊娠女性や授中の女性に使用される医薬品の臨床及び非臨床データから催奇形性のリスクの評価見直しに関して検討するとともに、その検討結果と諸外国の薬剤胎児危険度分類基準を参考に、医薬品の添付文書における記載等の情報提供の指針ともなり得る、より一般的かつ詳細で、さらに臨床的対応の原則的指針にも結びつくような日本版薬剤胎児危険度分類基準を確立することである。

これらの最終的な目的の達成のために、我々は平成19年度までの厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業）「臨床及び非臨床のデータに基づく医薬品の催奇形性のリスク分類に関する研究」において、新しい日本版薬剤胎児危険度分類基準の分類試案として『SEA分類』の考え方を提唱した。しかしながら、このSEA分類はまだ分類としてはいわば未熟な段階であった。一般的に分類というものは、ある程度の専門性は必要であるものの、誰が分類しても同じものは同一のカテゴリーに分類されるような明快さと普遍性がなければならない。

そこで、平成20年度より開始した本研究においては、SEA分類をより明快で普遍性を持った分類に発展させることを目的に研究を遂行している。SEA分類およびSEA分類の手引きについて、さらに完成度を高めて平成22年度末において最終版を作成することを目的に研究を行った。

## B. 研究方法

20年度は研究分担者において実際に分類を行い、21年度と22年度は製薬企業の協力を得て、本分類作成に関わっていない第三者として自社医薬品のSEA分類試行をしていただき、結果について討議を行った。20-22年度に分類の改良を行った。

なお、協力いただいた製薬企業は以下の5社である。

- ・あすか製薬株式会社

- ・株式会社ツムラ
  - ・日本イーライリリー株式会社
  - ・田辺三菱製薬株式会社
  - ・アステラス製薬（順不同）
- 分類を試行した医薬品は以下の通りである（商品名、括弧内は一般名）。
- ・リピディルカプセル（フェノフィブラート）
  - ・プラノバル配合錠（ノルゲストレル・エチニルエストラジオール錠）
  - ・ヒューマログ注（インスリンリスプロ）
  - ・タナトリル（イミダプリル塩酸塩）
  - ・テオドール（テオフィリン）
  - ・ツムラ当帰芍薬散エキス顆粒（当帰芍薬散）
  - ・ツムラ桂枝茯苓丸エキス顆粒（桂枝茯苓丸）
  - ・ツムラ六君子湯エキス顆粒（六君子湯）
  - ・オステラック（エトドラク（NSAIDs））
  - ・ジプレキサ（オランザピン）
  - ・アレギサール（ペミロラストカリウム）
  - ・リーゼ（クロチアゼパム）
  - ・アトック（ホルモテロールフマル酸塩水和物）
  - ・ジョサマイシン（ジョサマイシン）
  - ・ローガン（アモスラロール塩酸塩）

さらに、妊娠女性に対するその薬剤のUtilityの分類（U分類）の構築、U分類およびSEA分類に基づく薬剤の総合評価基準（SEA-U分類、A、B、C、D、X）について検討を行った。その際、研究班を構成する班員とともに、わが国の本研究領域における有識者を交えて討議を重ねた。

これらを通じて、21年度までの研究の結果抽出されている問題点の解決を試みた。

## （倫理面への配慮）

本研究において、対象となる個人は存在せず、その他にも特段の配慮は不要と考えられた。

## C. 研究結果

SEA-U分類およびSEA-U分類の手引きにおいて、製薬企業および班員からの指

摘を受けて改良を重ねてきた。以下の問題点について、すべて一定の解決策を提示することができた。

<S分類について>

- ・「大規模比較対照研究」および「他の研究」の定義が不明瞭であること
- ・文献の採用・不採用の基準が曖昧であること

<E分類について>

- ・「臨床経験」を文献から収集する際のルールが不明瞭であること

<A分類について>

- ・漢方薬など動物実験データ収集に限界がある場合があること

<その他>

- ・類薬の定義について
- ・小奇形の定義について
- ・「催奇形性」「胎児毒性」という文言について

<U分類について>

妊娠女性に対するその薬剤の Utility、つまり有益性、有用性の分類 (U分類) および SEA 分類に基づく薬剤の総合評価基準 (SEA-U 分類) をそれぞれ構築することができた。

これらの結果、SEA-U 分類 (最終版) (添付) を完成させることができた。さらに、本 SEA-U 分類 (最終版) に基づくガイドライン化に向けた分類の手引きを作成することができた。

#### D. 考察

3年間の研究の結果、SEA-U 分類およびその手引きをより明快で普遍性を持ったものとして、最終的に SEA-U 分類として完成させることができた。

SEA-U 分類は、研究結果も臨床経験も同等に重視した分類であり、さらに動物実験データも加味し、従来の FDA 分類やオーストラリア分類の欠点を克服するものである。また、単なるリスクカテゴリーのグレードを示したものではなく、その根拠を記号化して明示したものであり、ある医薬品についてリスクカテゴリーが

一人歩きする危険性が少ない。そのため、医師、薬剤師、さらには患者自身に根拠が明快に伝わると考えられる。さらに製薬企業による分類試行結果を分類改定に的確に反映させているため、一定の知識を有した医療従事者あるいは製薬企業であれば、その薬剤の分類が十分可能である。このことは、現在市販されている薬剤のみならず、今後新しく発売される薬剤についても的確に分類することができることを意味している

なお今後は、この SEA-U 分類の新たな日本版薬剤胎児危険度分類基準としての普及について検討が必要と考えられる。このような分類は、完成させることはその第一歩に過ぎず、普及させることで初めて多くの母児がその恩恵を受けることになる。そのための方策としては、ガイドライン化がきわめて有効と考えられる。そのため、22年度はそれを見据えた分類の手引きの作成までを遂行した。

わが国の産婦人科領域では、平成 20 年に日本産科婦人科学会および日本産婦人科医会から出された「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2008」により、標準的産科診療が急速に全国に浸透した。その結果、より安全・安心な産科医療が提供されるようになってきている。その内容は薬剤の添付文書にも速やかに反映されている。このことはガイドライン化という手法の高い有用性を示すものであり、SEA-U 分類を中心とした「妊娠と薬」のガイドラインが作成されれば、その普及効果は絶大と考えられる。多くの母児のためのガイドライン化の遂行が期待される。

#### E. 結論

SEA 分類 (最終版) を完成させることができた。さらに、本 SEA-U 分類 (最終版) にガイドライン化に向けた分類の手引きを添えることで、今後の普及を見据えた内容とすることができた。

本 SEA-U 分類 (最終版) は、新たな日本版薬剤胎児危険度分類基準として今後

の普及が望まれる。

SEA-U 分類は、平成 22 年度末のものを本研究班の成果として最終版とするが、ガイドライン作成段階で、細則については変更される可能性はある。

#### F. 健康危険情報

特記すべき事項なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

1. Onda T, Yoshikawa H, et al.: Phase III trial of upfront debulking surgery versus neoadjuvant chemotherapy for stage III/IV ovarian, tubal and peritoneal cancers: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG0602. Jpn J Clin Oncol. 38(1):74-77, 2008.
2. Kondo K, Yoshikawa H, et al. Modification of human papillomavirus-like particle vaccine by insertion of the cross-reactive L2-epitopes. J Med Virol. 80(5): 841-846, 2008.
3. Tanaka YO, Yoshikawa H, et al. Carcinosarcoma of the uterus: MR findings. J Magn Reson Imaging 28(2): 434-439, 2008.
4. Satoh T, Yoshikawa H, et al. Silent venous thromboembolism before treatment in endometrial cancer and the risk factors. Br J Cancer 99(7): 1034-1039, 2008.
5. Ochi H, Yoshikawa H, et al. Neutralizing antibodies against human papillomavirus types of 16, 18, 31, 52, and 58 in the serum samples from Japanese women with low grade cervical intraepithelial neoplasia. Clin Vaccine Immunol. 15(10): 1536-1540, 2008.
6. Ohara K, Yoshikawa H, et al. Comparison of tumor regression rate of uterine cervical squamous cell carcinoma during external beam and intracavitary radiotherapy. Radiat Med. 26(9): 526-532, 2008.
7. 三橋直樹:「妊婦への抗菌薬の使用」産婦人科治療 97(4):420-423. 2008.
8. 三橋直樹:「月経周期の調節」産科と婦人科 (増刊号) 75:216-218. 2008.
9. Mitsuhashi A, Shozu M, et al. Serum YKL-40 as a marker for cervical adenocarcinoma. Ann Oncol, 20(1):71-77, 2009.
10. 松井英雄、生水真紀夫、他:胎児共存奇胎の診断と管理. 産婦人科の実際、57(4):643-649、2008.
11. 三橋暁、生水真紀夫、他:子宮体癌におけるホルモン治療の限界は. 臨床婦人科産科、62(4):583-589、2008.
12. 可西直之、生水真紀夫、他:子宮とアロマターゼ HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY、15(1):28-32、2008.
13. 生水真紀夫、他:アロマターゼ発現の調節機構. HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY、15(1):15-21、2008.
14. 松井英雄、生水真紀夫、他:葉酸代謝拮抗剤 メソトレキセート(MTX) 産科と婦人科、75(3) :333-339、2008.
15. 生水真紀夫、他:アロマターゼ阻害薬による内膜症治療 産科と婦人、75(1): 33-38、2008.
16. 生水真紀夫、他:エストロゲン受容体作用機構 臨床泌尿器科 . 63(2):131-136、2008.
17. 堀内元城、生水真紀夫、他:続クロストーク医療裁判 医師の説明義務のあり方 分娩方法に関する説明義務違反事件 最高裁平成 17 年 9 月 8 日判決の事例から、病院 67(11): 1003-1009、2008.
18. 生水真紀夫:医師不足と地域医療の崩壊 現状と展望 診療科の問題 産婦人科医師不足と医療崩壊 医学のあゆみ 224(12) : 942-945、2008.

19. 生水真紀夫:子宮内膜症と最近の話題、千葉県医師会雑誌、60(5):42-43、2008.
20. 江馬 眞、他:「神経発生毒性試験」毒性質問箱 (安全性評価研究会編集委員会 編)サイエンティスト社、11:36-43、東京、2008.
21. 松本真理子、江馬 眞、他:OECD 高生産量化学物質点検プログラム:第 26 回初期評価会議概要、化学生物総合管理学会誌、4(2):237-245、2008.
22. 高橋美加、江馬 眞、他:OECD 化学物質対策の動向(第 14 報)ー第 23 回、第 24 回 OECD 高生産量化学物質初期評価会議(2006 年済州、2007 年パリ)、化学生物総合管理学会誌、4(2):225-236、2008.
23. 江馬 眞、他:第 8 章 神経毒性試験、非臨床試験ーガイドラインへの対応と新しい試みー(野村、堀井、吉田 編)pp. 175-199、LIC、東京、2008.
24. Matsumoto M, Enma M, et al. Review of testicular toxicity of dinitrophenolic compounds, 2-sec-butyl-4,6-dinitrophenol, 4,6-dinitro-o-cresol and 2,4-dinitrophenol. *Reprod Toxicol*, 26(3-4):185-190, 2008.
25. Harada T, Enma M, et al. Reproductive and developmental screening toxicity study of 4-Aminophenol in rats. *Drug Chem Toxicol*, 31(4):473-486, 2008.
26. 松本真理子、江馬 眞、他:OECD 高生産量化学物質点検プログラムー第 25 回初期評価会議概要、化学生物総合管理学会誌、4(1):136-143、2008.
27. Enma M, et al.:Repeated dose and reproductive toxicity of the ultraviolet absorber 2-(3',5'-di-tert-butyl-2'-hydroxyphenyl)-5-chlorobenzotriazole in rats. *Drug Chem Toxicol*, 31(3):399-412, 2008.
28. Hirata-Koizumi M, Enma M, et al. Gender-related Difference in the Toxicity of Ultraviolet Absorber 2-(3',5'-Di-tert-butyl-2'-hydroxyphenyl)-5-chlorobenzotriazole in Rats. *Drug Chem Toxicol*, 31(3):383-398, 2008.
29. Enma M, et al. Two-generation reproductive toxicity study of the flame retardant hexabromocyclododecane in rats. *Reprod Toxicol*, 25(3):335-351, 2008.
30. Matsumoto M, Enma M, et al. Review of developmental toxicity of nitrophenolic herbicide dinoseb, 2-sec-butyl-4,6-dinitrophenol. *Reprod Toxicol*, 25(3):327-334, 2008.
31. Matsumoto M, Enma M, et al.:Combined repeated dose and reproductive/developmental toxicity screening test of the nitrophenolic herbicide dinoseb, 2-sec-butyl-4,6-dinitrophenol, in rats. *Environ Toxicol*, 23(2):169-183, 2008.
32. Hirata-Koizumi M, Enma M, et al. Lack of Gender-related difference in the toxicity of 2-(2'-hydroxy-3',5'-di-tert-butylphenyl) benzotriazole in preweaning rats. *Drug Chem Toxicol*, 31(2):275-287, 2008.
33. Hirata-Koizumi M, Enma M, et al. Reproductive and developmental toxicity screening test of tetrahydrofurfuryl alcohol in rats. *Reprod Toxicol*, 25(2):231-238, 2008.
34. 須藤なほみ、北川浩明、他:「針生検で診断し得なかった広間膜内腫瘍の 1 例」日本産科婦人科学会東京地方部会会誌、57:155~158、2008.
35. 林 昌洋:「抗菌薬投与時の安全確保妊婦」薬剤師のための感染制御標準テキスト妊娠中の睡眠薬服用(第 4 章

- 抗菌薬の適正使用と限界)じほう 神谷 晃、尾家重治 223-231、2008.
36. 林 昌洋:「妊娠中の睡眠薬服用」臨床で役立つ(睡眠薬 Q&A)薬局 南山堂 59(1):93-96, 2008.
  37. 櫛田賢次、林 昌洋:監修「妊娠・授乳とくすり Q&A- 安全・適正な薬物ちり用のために-」じほう 182、2008.
  38. 林 昌洋:「妊婦・授乳婦専門薬剤師、妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師」月刊薬事 じほう 50(10):83-86、2008.
  39. 林 昌洋:「知って安心 妊娠中の薬」NHK テレビテキスト きょうの健康 日本放送出版協会 10:78-81、2008.
  40. Aita K, Hamada H, et al. Acute and transient podocyte loss and proteinuria in preeclampsia. *Nephron Clinical Practice* 112(2): c65-c70, 2009.
  41. 中村佳子、濱田洋実、吉川裕之、他: 周期性血小板減少症合併妊娠の1例. *日本周産期・新生児医学会雑誌* 44(3):750-754、2008.
  42. 野口里枝、濱田洋実、吉川裕之、他: 海綿状血管腫合併妊娠の3例. *日本周産期・新生児医学会雑誌* 44(1):145-148、2008.
  43. 志村玲奈、濱田洋実、吉川裕之、他: 閉塞性睡眠時無呼吸症候群合併妊娠におけるCPAP療法の有効性. *日本周産期・新生児医学会雑誌* 44(1):130-134、2008.
  44. 八木洋也、濱田洋実、吉川裕之、他: 急性間歇性ポルフィリン症合併妊娠の一例. *日本産科婦人科学会関東連合地方部会会報*, 44(4): 377-381. 2008.
  45. Misu T, Satoh N, et al. Investigation of over-the-counter drugs used during pregnancy and literature search of their components. *Jpn. J. Drug Inform*, 10(2):126-140, 2008.
  46. Miyazaki T, Satoh N, et al. Construction of a prescription drug information leaflet-generating system reflecting the condition of individual patients and contents of prescriptions. *Jpn J Drug Inform*, 10(2):110-118, 2008.
  47. Hayashi T, Murashima A, et al. Outcome of Prenatally Diagnosed Isolated Congenital Complete Atrioventricular Block Treated with Transplacental Betamethasone or Ritodrine Therapy. *Pediatr Cardiol*. 30(1):35-40, 2008.
  48. 小澤伸晃、村島温子、他: 不育症患者に対する大量ヒト免疫グロブリン療法の有効性の検討 成長科学協会研究年報 31: 235-238, 2008.
  49. 村島温子: 挙児希望の関節リウマチ患者の薬物治療-エタネルセプトを使用しながら妊娠した3症例の報告- 日本臨床、66(11):2215-2220、2008.
  50. 村島温子: 飲んで大丈夫? やめて大丈夫? これだけは知っておきたい薬の知識 第1回総論 妊娠・授乳と薬 助産雑誌 62(4):354-359, 2008.
  51. 村島温子: 【妊婦が外来に来たら】胎児に安全な薬物療法と放射線の安全性 *Journal of Integrated Medicine* 18(3):204-208 2008.
  52. 村島温子: TNF 阻害薬と妊娠 リウマチ科 39(1):61-66, 2008.
  53. Morikawa M, Minakami H, et al. Ileal atresia after fetoscopic laser photocoagulation for twin-to-twin transfusion syndrome - a case report. *Prenat Diagn*. 28(11):1072-1074, 2008.
  54. Morikawa M, Minakami H, et al. Pregnancy outcome of women who



- developed proteinuria in the absence of hypertension after mid-gestation. *J Perinat Med* 36(5): 419-424, 2008.
55. Yamada T, Minakami H, et al. Complete hydatiform mole with coexisting dichorionic diamniotic twins following testicular sperm extraction and intracytoplasmic sperm injection. *J Obstet Gynaecol Res* 34(1):121-124, 2008.
  56. Obata-Yasuoka M, Yoshikawa H, et al. Midtrimester termination of pregnancy by using gemeprost in combination with laminaria in women who have previously undergone cesarean section. *J Obstet Gynecol Res*, 35(5) : 901-905, 2009.
  57. Onda T, Yoshikawa H, et al. Feasibility study of neoadjuvant chemotherapy followed by interval debulking surgery for stage III/IV ovarian, tubal, and peritoneal cancers: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG0206, *Gynecol Oncol*, 113(1): 57-62, 2009.
  58. Konno R, Yoshikawa H, et al. Immunogenicity, reactogenicity and safety of human papillomavirus 16/18 AS04-adjuvanted vaccine in Japanese women: interim analysis of a phase II double-blind, randomized controlled trial at Month 7. *Int J Gynecol Cancer*, 19(5): 905-911, 2009.
  59. Abe K, Yoshikawa H, et al. Stem cells of GATA1-related leukemia undergo pernicious changes after 5-fluorouracil treatment. *Exp Hematol*, 37(4): 435-445.e1, 2009.
  60. Tanaka YO, Yoshikawa H, et al. MR and CT findings of leiomyomatosis peritonealis disseminata with emphasis on assisted reproductive technology as a risk factor. *Br J Radiol*, 82(975): e44-47, 2009.
  61. Onuki M, Yoshikawa H, et al. Human papillomavirus infections among Japanese women: age-related prevalence and type-specific risk for cervical cancer. *Cancer Sciences*, 100(7): 1312-1316, 2009.
  62. Onda T, Yoshikawa H. A phase III randomized trial comparing neoadjuvant chemotherapy and upfront debulking surgery is indispensable as a basis for changing the standard treatment of advanced Müllerian cancer. *Gynecol Oncol*. 114(2): 371-372, 2009
  63. Kondo K, Yoshikawa H, et al. Nuclear location of minor capsid protein L2 is required for expression of a reporter plasmid packaged in HPV51 pseudovirions. *Virology*. 394(2): 259-265. 2009.
  64. Shimizu Y, Yoshikawa H, et al. Successful pregnancy in a female patient with congenital chloride diarrhea (CLD) and renal impairment. *J Nephrol*, 22(6): 809-813, 2009.
  65. 三橋直樹:「妊娠とくすり」今日の治療指針 937-939. 2009.
  66. 三橋直樹:「妊婦」特集上手な抗菌薬の使い方、臨床と研究 86:1324-1326. 2009.
  67. Matsui H, Shozu M, et al. Comparison of 2 commercially available human chorionic gonadotropin immunoassays used in the management of gestational trophoblastic neoplasia. *The Journal of Reproductive Medicine*, 54(10):631-635, 2009.
  68. Ishikawa H, Shozu M, et al. High aromatase expression in uterine

- leiomyoma tissues of African-American women. *J Clin Endocrinol Metab*, 94(5):1752-1756, 2009.
69. Mitsuhasi A, Shozu M, et al. Serum YKL-40 as a marker for cervical adenocarcinoma. *Ann Oncol*, 20(1):71-77, 2009.
  70. Uno T, Shozu M, et al. Vessel-contouring-based pelvic radiotherapy in patients with uterine cervical cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 39(6):376-380, 2009.
  71. 木原真紀、生水真紀夫、他：胎児共存全奇胎と部分奇胎 産科と婦人科 76(3)：289-293, 2009.
  72. 松井英雄、生水真紀夫、他：存続絨毛症に対する薬物療法 産科と婦人科 76(3)：301-305, 2009.
  73. 生水真紀夫、他：卵巣嚢胞の分類と成因 産科と婦人科 76(7)：824-829, 2009.
  74. 生水真紀夫、他：エストロゲン受容体作用機構 臨床泌尿科 63(2)：131-136, 2009.
  75. 生水真紀夫：HRT とアンチエイジング Drug Delivery System march 24(2) 通巻第 124 号：117-126, 2009.
  76. 生水真紀夫：婦人科疾患の診断・治療・管理 腫瘍と類腫瘍 子宮の腫瘍・類腫瘍 子宮腺筋症 日本産科婦人科学会雑誌 61(5)：151-158, 2009.
  77. 生水真紀夫、他：生殖機能病態学 千葉医学雑誌 85(3)：141-146, 2009.
  78. 三橋暁、生水真紀夫：子宮内膜症 卵管子宮内膜症(解説/特集) 子宮疾患・子宮内膜症の臨床 67(5)：449-451, 2009.
  79. 石川博士、生水真紀夫：治療 排卵誘発剤の使用－FSH 産婦人科の実際 不妊治療ハンドブック 58(11)臨時増刊：1073-1708, 2009.
  80. 生水真紀夫：産科医療の現場からみる今日の妊娠・出産 晩婚化・晩産化の進展が招く様々な問題 JOURNAL OF FINANCIAL PLANNING September 11(116)：7-11, 2009.
  81. 加来博志、生水真紀夫、他：臨床的癒着胎盤の待機療法 産婦人科の実際 58(12)：2035-2042, 2009.
  82. 尾崎江都子、生水真紀夫、他：産科手術における新しい血管内バルーン閉鎖術の試み 大量出血が予想された前置胎盤症例に対する Intra-arterial balloon occlusion(IABO)の使用経験 日本産科婦人科学会関東連合地方部会誌 46(4)：393-398, 2009.
  83. 生水真紀夫：子宮筋腫に対する動脈塞栓術 切らずに治す子宮筋腫の最先端治療(おなかも子宮も傷つけないまま、辛い症状から解放される！) 子宮筋腫治療に登場した新たな選択肢 ミレニアム 31号：10-11, 2009.
  84. 長田久夫、生水真紀夫：月経異常薬局 増刊号 病気と薬 パーフェクト BOOK 60(4)：1016-1019, 2009.
  85. 長田久夫、生水真紀夫：臨床でよく遭遇する症候「月経異常」 薬局増刊号 病気と薬 パーフェクト BOOK 60(4)：86-88, 2009.
  86. 長田久夫、生水真紀夫：婦人科疾患「避妊」 薬局増刊号 病気と薬 パーフェクト BOOK 60(4)：1043-1047, 2009.
  87. Hirata-Koizumi M, Ema M, et al. Disappearance of gender-related difference in the toxicity of benzotriazole ultraviolet absorber in juvenile rats. *Cong Anom, (Kyoto)* 49(4)：247-252, 2009.
  88. Hirata-Koizumi M, Ema M, et al. Susceptibility of neonatal rats to xenobiotics. In: *General Applied Toxicology, 3rd Edition*, Ballantyne B, Marrs T, Syversen T (eds). John Wiley & Sons Ltd, Chichester, UK, 2041-2054, 2009.
  89. Makris S, Ema M, et al. Terminology of developmental abnormalities in common laboratory mammals (version

- 2). Cong Anom (Kyoto) 49(3): 123-246. Reprod Toxicol 28(3): 371-434. Birth Defect Res, 86(4): 227-327, 2009.
90. 江馬 眞、他:冷媒の分解物の毒性評価、環境毒性学会誌、12, 1-18. 2009.
91. Hirata-Koizumi M, Ema M, et al. Gender-related difference in the toxicity of 2-(2',5'-di-tert-butylphenyl) benzotriazole in rats: Relationship to the plasma concentration, in vitro hepatic metabolism, and effects on hepatic metabolizing enzyme activity. Drug Chem Toxicol. 32(3):204-214, 2009.
92. Ema M. et al. Developmental toxicity of dibutyltin dichloride in cynomolgus monkeys given on three consecutive days during organogenesis. Drug Chem Toxicol, 32(2):150-157, 2009.
93. Takahashi M, Ema M, et al. Reproductive and developmental toxicity screening study of 2,4-dinitrophenol in rats. Environ Toxicol 24(1):74-81, 2009.
94. 高橋美加、江馬 眞、他:OECD化学物質対策の動向(第15報) -第25回、第26回OECD高生産量化学物質初期評価会議(2007年ヘルシンキ、2008年パリ)、化学生物総合管理学会誌、5; 193-200, 2009.
95. Nakazawa T, Ema M, et al. Renal tubular cyst formation in newborn rats treated with p-cumylphenol. J Toxicol athol, 22:125-131, 2009.
96. 江馬 眞、他:ナノサイズ二酸化チタンの遺伝毒性評価、環境毒性学会誌. 2009, 12(1), 71-84.
97. 江馬 眞、他:冷媒として使用されているハイドロフルオロカーボンの毒性評価、環境毒性学会誌. 2009, 12(2), 85-105.
98. 林 昌洋、北川浩明、他:リン酸オセルタミビル服薬妊婦の妊娠転帰に関する症例集積調査 日本病院薬剤師会雑誌, 45(4): 547-550, 2009.
99. 山根律子、林 昌洋、北川浩明、他:プラシルカスト水和物服薬妊婦の妊娠転帰に関する症例集積調査 日本病院薬剤師会雑誌, 45(6): 813-816, 2009.
100. 林 昌洋、北川浩明、他:塩酸テルビナフィン服薬妊婦の妊娠転帰に関する症例集積調査 医薬品情報学 (Japanese Journal of Drug Informatics) 11(1):31-34, 2009.
101. 山根律子、林 昌洋、北川浩明、他:非定型抗精神病薬服薬妊婦に関する症例集積調査: : 医薬品情報学 (Japanese Journal of Drug Informatics), 11(1):35-38, 2009.
102. 前田葉子、林 昌洋、北川浩明、他:妊娠第1 三半期に薬物を使用した妊婦の妊娠転帰に関する症例集積調査(第3報:プラウノール) 日本病院薬剤師会雑誌, 45(10): 1357-1359, 2009.
103. 林 昌洋:妊婦・授乳婦に対する医薬品の使用上の注意 - 薬物の胎盤通過、母乳移行と胎児・乳児毒性-治療学 ライフサイエンス社 43(12):29-32.
104. 林 昌洋:妊婦・授乳婦の服薬に関する知識とカウンセリングのポイント 妊産婦と赤ちゃんケア, 日総研グループ 1(5):66-76, 2009.
105. 林 昌洋:妊婦・授乳婦に対する薬剤師の対応 からだの科学【増刊号】これからの薬剤師 日本評論社 94-99, 2009.
106. 林 昌洋:妊婦への薬物療法の情報提供 周産期医学 東京医学社 39(11):1467-1472, 2009.
107. 前田葉子、林 昌洋、北川浩明、他:妊娠第13 半期に薬物を使用した妊婦の妊娠転帰に関する症例集積調査

- (第3報:プラウノール) 日本病院薬剤師会雑誌, 45(10):1357-1359, 2009.
108. 幸田幸直、濱田洋実、他:「妊娠と薬外来」における薬剤相談の取り組み. *Pharmacy Today* 22(2):9-13, 2009.
  109. Murashima A, et al. Etanercept during pregnancy and lactation in a patient with rheumatoid arthritis: drug levels in maternal serum, cord blood, breast milk and the infant's serum. *Ann Rheum Dis*, 68(11):1793-1794, 2009.
  110. Yamaguchi K, Murashima A, et al. Relationship of Th1/Th2 cell balance with the immune response to influenza vaccine during pregnancy. *J Med Virol*, 81(11):1923-1928, 2009.
  111. Tanaka T, Murashima A, et al. Safety of neuraminidase inhibitors against novel influenza A (H1N1) in pregnant and breastfeeding women. *CMAJ*, 181(1-2):55-58, 2009.
  112. Hayashi T, Murashima A, et al. Outcome of prenatally diagnosed isolated congenital complete atrioventricular block treated with transplacental betamethasone or ritodrine therapy. *Pediatr Cardiol*, 30(1):35-40, 2009.
  113. 宮田あかね、村島温子:母体疾患の薬物療法 膠原病合併妊娠の薬物療法. *周産期医学* 39(11):1539-1544, 2009.
  114. 村島温子:関節リウマチの治療のしかた 大きく変わった治療とそのコツ 患者さんが妊娠したときや授乳時にはどうしたらよい? 妊娠可能な女性患者における注意点. *Jmed mook* 3:117-120, 2009.
  115. 志村右子、村島温子:妊娠希望者と妊娠中におけるリウマチ治療薬選択. *リウマチ科* 41:589-593, 2009.
  116. 石井真理子、村島温子、他:高血圧合併妊娠におけるアムロジピンの胎児移行および母乳移行に関する検討 2例報告. *日本病院薬剤師会雑誌* 45(6):817-820, 2009.
  117. 村島温子:関節リウマチの診断と治療 妊娠希望者・妊婦に対する薬剤の使い方. *カレントセラピー* 27(12):512-516, 2009.
  118. 磯島咲子、村島温子:臨床で遭遇する生物学的DMARDsの処方せん 妊娠あるいは妊娠を希望する女性. *薬局* 60(3):463-467, 2009.
  119. 神山紀子、村島温子、他:妊婦における高血圧治療薬の産婦人科医と内科医の使用実態調査 カルシウム拮抗薬を中心として. *医療薬学* 35(4):267-280, 2009.
  120. 村島温子:特殊な状態に対する配慮 妊娠を希望する女性および妊婦. *内科* 103(4):694-697, 2009.
  121. 村島温子:「薬物療法/処方/服薬指導」のコツ 妊婦・授乳婦への薬剤投与、治療 91(3月臨時増刊号):148-149, 2009.
  122. 中島 研、村島温子、他:相談者が予測する妊娠中の薬剤使用による先天奇形発生率とカウンセリングによる改善の評価. *日本病院薬剤師会雑誌* 45(3):377-380, 2009.
  123. Shimada S, Minakami H, et al. A high dose of intravenous immunoglobulin increases CD84 expression on natural killer cells in women with recurrent spontaneous abortion. *Am J Reprod Immunol*, 62(5):301-307, 2009.
  124. Morikawa M, Minakami H, et al. Outcome of pregnancy in patients with isolated proteinuria. *Curr Opin Obstet Gynecol*, 21(6):491-495, 2009.
  125. 小山貴弘、水上尚典、他.:妊娠中の薬剤投与:一大学病院からの調査報

- 道産科婦人科学会誌 2009, 54:25-31
126. Onda T, Yoshikawa H, et al. The Optimal Debulking After Neoadjuvant Chemotherapy in Ovarian Cancer; Proposal Based on Interval Look During Upfront Surgery Setting Treatment. *Jpn J Clin Oncol.* 2010, 40(1): 36-41.
  127. Saito I, Yoshikawa H, et al. A Phase III Trial of Paclitaxel plus Carboplatin Versus Paclitaxel plus Cisplatin in Stage IVB, Persistent or Recurrent Cervical Cancer: Gynecologic Cancer Study Group/Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG0505). *Jpn J Clin Oncol.* 2010, 40(1): 90-93.
  128. Satoh T, Yoshikawa H, et al. Outcomes of Fertility-Sparing Surgery for Stage I Epithelial Ovarian Cancer: A Proposal for Patient Selection. *J Clin Oncol.* 2010, 28(10):1727-1732.
  129. Tanaka YO, Yoshikawa H, et al. MRI of endometriotic cysts in association with ovarian carcinoma. *Am J Roentgenol*, 2010, 194(2):355-361.
  130. Nagano M, Hamada H, Yoshikawa H, et al. Hypoxia responsive mesenchymal stem cells derived from human umbilical cord blood are effective for bone repair. *Stem Cells Dev.* 2010, 19(8):1195-1210.
  131. Nagase S, Yoshikawa H, et al. Evidence-based guidelines for treatment of cervical cancer in Japan: Japan Society of Gynecologic Oncology (JSGO) 2007 edition. *Int J Clin Oncol*, 2010, 15(2):117-124.
  132. Konno R, Yoshikawa H, et al. Efficacy of human papillomavirus 16/18 AS04-adjuvanted vaccine in Japanese women aged 20 to 25 years: interim analysis of a phase 2 double-blind, randomized, controlled trial. *Int J Gynecol Cancer*, 2010. 20(3):404-410.
  133. Matsumoto K, Hamada H, Yoshikawa H, et al. Interleukin-10 -1082 gene polymorphism and susceptibility to Cervical Cancer among Japanese Women. *Jpn J Clin Oncol.* 2010, 40(11):1113-1116.
  134. Shibata T, Hamada H, Yoshikawa H, et al. Characterization of the acid-alkaline transition in the individual subunits of human adult and fetal methemoglobins. *Biochemistry*, 2010, 148(2): 217-229.
  135. Konno R, Yoshikawa H, et al. Efficacy of Human Papillomavirus Type 16/18 AS04-Adjuvanted Vaccine in Japanese Women Aged 20 to 25 Years: Final Analysis of a Phase 2 Double-Blind, Randomized Controlled Trial. *Int J Gynecol Cancer*, 2010, 20(5):847-855.
  136. Ogishima H, Hamada H, Yoshikawa H, Murashima A, et al. High-dose unfractionated heparin therapy in a pregnant patient with antiphospholipid syndrome: a case report. *Int J Rheum Dis*, 2010, 13(3):e32-35.
  137. Saida T, Yoshikawa H, et al. Can MRI predict local control rate of uterine cervical cancer immediately after radiation therapy? *Magn Reson Med Sci*, 2010, 9(3):141-148.
  138. Konno R, Yoshikawa H, et al. Cervical Cancer Working Group report. *Jpn J Clin Oncol.* 40 Suppl 1:i44-50, 2010.
  139. Matsumoto K, Yoshikawa H, et al.

- Tobacco Smoking and Regression of Low-Grade Cervical Abnormalities. *Cancer Sciences*, 2010, 101(9): 2065-2073.
140. Nagase S, Yoshikawa H, et al. Evidence-based guidelines for treatment of uterine body neoplasm in Japan: Japan Society of Gynecologic Oncology (JSGO) 2009 edition. *Int J Clin Oncol*, 2010, 15(6): 531-542.
  141. Tran TC, Hamada H, Yoshikawa H, et al. Identification of human placenta-derived mesenchymal stem cells involved in re-endothelialization. *J Cell Physiol*, 2011, 226(1):224-235.
  142. Tanaka YO, Yoshikawa H, et al. Solid non-invasive ovarian masses on MR: Histopathology and a diagnostic approach. *Eur J Radiol*. in press.
  143. Matsumoto K, Yoshikawa H, et al. Predicting the Progression of Cervical Precursor Lesions by Human Papillomavirus Genotyping: A Prospective Cohort Study. *Int J Cancer*, in press.
  144. Obata-Yasuoka M, Hamada H, Yoshikawa H, et al. Alveolar capillary dysplasia associated with duodenal atresia: Ultrasonographic findings of enlarged, highly echogenic lungs and gastric dilatation in a third-trimester fetus. *J Obstet Gynecol Res*, in press.
  145. Fujiwara K, Yoshikawa H, et al. A Randomized Phase II/III Trial of 3 Weekly Intraperitoneal versus Intravenous Carboplatin in Combination with Intravenous Weekly Dose-Dense Paclitaxel for Newly Diagnosed Ovarian, Fallopian Tube and Primary Peritoneal Cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 2011, 41(2): 278-282.
  146. Konno R, Yoshikawa H, et al. Prevalence and type distribution of human papillomavirus in healthy Japanese women aged 20 to 25 years old enrolled in a clinical study. *Cancer Science*, in press
  147. Yagi H, Hamada H, Yoshikawa H, et al. Complete restoration of phenylalanine oxidation in phenylketonuria mouse by a self-complementary adeno-associated virus vector. *Journal of Gene Medicine*, in press.
  148. Minakami H, Hamada H, Konishi I, Yoshikawa H, et al. Guidelines for obstetrical practice in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology (JSOG) and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists (JAOG) 2011 edition. *J Obstet Gynecol Res*, in press.
  149. Tanaka YO, Yoshikawa H, et al. Ovarian serous surface papillary borderline tumors form sea anemone-like masses. *J Magn Reson Imaging*. in press.
  150. Onda T, Yoshikawa H. Neoadjuvant chemotherapy for advanced ovarian cancer: overview of outcomes and unanswered questions. *Expert Review of Anticancer Therapy*, in press
  151. Mitsuhashi A, Shozu M, et al. Postoperative Concurrent Ddaily Low-dose Cisplatin-based Chemoradiation Improves the Prognosis of Patients with Pathologic T2b or N1 Cervical Cancer. *Anticancer Research*. 2010, 30(6):2341-2346.
  152. Nishikimi K, Shozu M, et al.

- Cytological findings of low-grade endometrial stromal sarcoma with sex cord like differentiation. *Acta cytological*, 2010, 54(1):85-88.
153. Zhang B, Shozu M, et al. Insulin-like growth factor 1 enhances the aromatase P450 expression by inhibiting autophagy, *Endocrinol*. 2010, 151(10):4949-4958.
154. Baasanjav B, Shozu M, et al. The risk of post-molar gestational trophoblastic neoplasia is higher in heterozygous than in homozygous complete hydatidiform moles. *Human Reproduction*, 2010, 25(5):1183-1191.
155. Nakamura M, Shozu M. Solitary metastasis of a clear cell ovarian adenocarcinoma to the small bowel mucosa. *J Obstet Gynaecol Res*. in press
156. Usui H, Shozu M, et al. Molecular distinction of consecutive molar pregnancies. *Obstet Gynecol*, 2011, 117 (2 Pt 2):492-495.
157. 生水真紀夫、他：経口排卵誘発剤の新たな展開 産婦人科の実際 59(1):53-60、2010年1月.
158. 生水真紀夫：妊娠 栄養塾 症例で学ぶクリニカルパール 医学書院 193-199、2010年2月.
159. 生水真紀夫、他：加齢に伴う卵の変化 産婦人科の実際 59(2):53-159、2010年2月.
160. 尾本暁子、生水真紀夫、他：胎児異常超音波スクリーニングのガイドラインを考える 日常診療からみた胎児超音波スクリーニング 超音波医学 37(Suppl) : S300、2010年4月.
161. 生水真紀夫：婦人科疾患におけるホルモン療法 臨床検査学雑誌 メディカル・テクノロジー 38(4):407-411、2010年4月.
162. 生水真紀夫、他：帝王切開術 産婦人科治療 産婦人科救急のすべて 100(増刊) :59-66、2010年4月.
163. 碓井宏和、生水真紀夫：変異Gn-RH受容体とゴナドトロピン単独欠損症 週刊医学のあゆみ 「第5土曜特集」最新G蛋白質共役受容体研究-疾患解明とシグナル制御の新時代-企画 飯利太郎 (東京大学大学院医学系研究科腎臓・内分泌科) 233(9):795-801、2010年5月.
164. 生水真紀夫、碓井宏和 子宮内膜症治療とアロマターゼ阻害剤 産科と婦人科、77(7):804-811、2010年7月.
165. 生水真紀夫：「子宮内膜日付診」生殖医療ガイドブック 2010 日本生殖医学会編 金原出版 128-29、2010年11月.
166. 生水真紀夫：卵子agingとメカニズム 日本医師会雑誌、139(10):2084、2011年1月
167. 江馬 眞、他：ナノサイズ二酸化チタンの遺伝毒性評価、環境毒性学会誌. 2009, 12(1):71-84.
168. 江馬 眞、他：冷媒として使用されているハイドロフルオロカーボンの毒性評価、環境毒性学会誌. 2009, 12(2), 85-105.
169. Ema M, et al.: Reproductive and developmental toxicity of hydrofluorocarbons used as refrigerants. *Reprod. Toxicol*. 2010, 29(1):1-9.
170. Matsumoto M, Ema M, et al. Prenatal developmental toxicity of gavage or feeding doses of 2-sec-butyl-4,6-dinitrophenol in rats. *Reprod. Toxicol*. 2010, 29(3), 292-297.
171. 江馬 眞、他：二酸化チタンの発がん性評価、環境毒性学会誌. 13(1), 15-26.
172. Ema M, et al.: Reproductive and

- developmental toxicity studies of manufactured nanomaterials. *Reprod. Toxicol.* 2010, 30(4), 343-352.
173. Kobayashi N, Ema M, et al. Biological response and morphological assessment of individually dispersed multi-wall carbon nanotubes in the lung after intratracheal instillation in rats. *Toxicology* 2010, 276(1), 143-153.
174. 高橋美加、江馬 眞、他：OECD化学物質対策の動向（第16報）－第27回OECD高生産量化学物質初期評価会議（2008年オタワ）、化学生物総合管理学会誌 2010, 6(2), 180-188.
175. Matsumoto M, Ema M, et al. Developmental toxicity of nitrophenolic herbicide dinoseb, 2-sec-butyl-4,6-dinitrophenol. In *Herbicides and Environment*, Edited by Kortekamp A (2011), InTech, ISBN 978-953-307-476-4 <http://www.intechopen.com/articles/show/title/developmental-toxicity-of-nitrophenolic-herbicide-dinoseb-2-sec-butyl-4-6-dinitrophenol>, National Institute of Health Sciences (NIHS) 543-560.
176. 江馬 眞、他：次世代の冷媒の候補とされている2,3,3,3-Tetrafluoroprop-1-ene (HFO-1234yf)の毒性評価、環境毒化学学会誌 2010, 12(2) 印刷中
177. 江馬 眞、他：種々の暴露経路による二酸化チタンの体内分布及び毒性、環境毒化学学会誌 2010, 12(2) 印刷中
178. Hirata-Koizumi M, Ema M, et al. Two-generation reproductive toxicity study of aluminium sulfate in rats. *Reprod. Toxicol.* in press
179. Hirata-Koizumi M, Ema M, et al. Two-generation reproductive toxicity study of aluminium sulfate in rats. *Reprod. Toxicol.* in press
180. 清水なほみ、北川浩明、他：副角子宮双胎妊娠の1例。日本産科婦人科学会東京地方部会会誌、59(1)：47-50, 2010.
181. 古賀千悠、北川浩明、他：心肺停止後に救命し得た臨床的羊水塞栓症の1例。日本産科婦人科学会東京地方部会会誌、59(2)：236-240, 2010.
182. 古賀千悠、北川浩明、他：大量性器出血に対して子宮動脈塞栓術が有効であった頸管腺型腺筋症の1例。日本産科婦人科学会関東連合地方部会誌、47(3)：359, 2010.
183. 濱田洋実：日本における医薬品添付文書の記載要領と問題点。薬物治療コンサルテーション：妊娠と授乳（伊藤真也、村島温子編），南山堂，59-68, 2010、10月。
184. 安部加奈子、濱田洋実：てんかん合併妊娠。周産期医学 40(増刊)：243-246, 2011.1月。
185. 小島真奈、濱田洋実：精神疾患合併妊娠。周産期医学 40(増刊)：250-253, 2011.1月。
186. Hisano M, Murashima A, et al. Vitamin B6 deficiency and anemia in pregnancy. *Eur J Clin Nutr*, 64(2)：221-223, 2010.
187. Ogishima H, Hamada H, Yoshikawa H, Murashima A, et al. High-dose unfractionated heparin therapy in a pregnant patient with antiphospholipid syndrome: a case report. *Int J Rheum Dis*, 2010, 13(3)：e32-35.
188. 山口晃史、村島温子、他：妊娠中のインフルエンザワクチン接種の安全性：日本感染症学会誌2010、84：449-453.
189. 村島温子：エビデンスに基づく妊娠



- 中の薬の使い方. 日本医師会雑誌, 2011, 139 : 2117-2121.
190. Yamada T, Minakami H, et al. Do uterotrophic drugs increase the risk of fatal hemorrhagic brain stroke? J Perinat Med. J Perinat Med. 2011, 39(1):23-26.
191. Yamada T, Minakami H, et al. No maternal mortality from pandemic (H1N1) 2009 occurred in Japan. BMJ 2010 Aug 6.
192. Tsuda M, Minakami H, et al. A type of familial cleft of the soft palate maps to 2p24.2-p24.1 or 2p21-p12. J Hum Genet 2010, 55(2):124-126.
193. Yamada T, Minakami H, et al. Invasive group A streptococcal infection in pregnancy. J Infect 2010, 60(6) : 417-424.
194. Kishi R, Minakami H, et al. Cohort Profile: The Hokkaido Study on Environment and Children's Health in Japan. Int J Epidemiol, in press
195. Koyama T, Minamiai H, et al. Marked gestational edema as a clinical sign of life-threatening condition. J Obstet Gynaecol Res 2010; 36: 861-865.
196. Morikawa M, Minakami H, et al. Change in the number of patients after the adoption of IADPSG criteria for hyperglycemia during pregnancy in Japanese women. Diabetes Res Clin Pract. 2010, 90(3) :339-342.
197. Morikawa M, Minakami H, et al. Evidence of the escape of antithrombin from the blood into the interstitial space in pregnant women. J Perinat Med. 2010, 38(6):613-635.
198. Morikawa M, Minakami H, et al. Pregnancy-induced antithrombin deficiency. J Perinat Med. 2010, 38(4):379-835.
199. Nakai A, Minakami H, et al. Characteristics of pregnant Japanese women who required hospitalization for treatment of pandemic (h1n1) 2009. J Infect. in press
2. 学会発表
1. 香取久美、濱田洋実、吉川裕之、他：「妊娠と薬」外来における服用薬剤の相談実態. 医療薬学フォーラム 2008/第 16 回クリニカルファーマシーシンポジウム、2008 年 7 月 12 日～13 日、東京.
  2. 小宮春奈、濱田洋実、吉川裕之、他：胃癌合併妊娠における化学療法のリスク. 第 159 回日本産科婦人科学会茨城地方部会例会、2008 年 6 月、水戸.
  3. 志村玲奈、濱田洋実、吉川裕之、他：当院における「妊娠と薬」に関する相談症例の検討 第 116 回日本産科婦人科学会関東連合地方部会学術集会、2008 年 11 月 29 日～30 日、宇都宮.
  4. 平田睦子、江馬 眞、他：2-(2'-Hydroxy-3',5'-di-tert-butylphenyl) benzotriazole (HDBB) の毒性—血中濃度及び肝薬物代謝酵素活性に対する影響、第 35 回日本トキシコロジー学会学術集会、6 月 26-28 日、2008、東京.
  5. 緒方英博、江馬 眞、他：2-(2'-Hydroxy-3',5'-di-tert-butylphenyl) benzotriazole (HDBB) の 52 日間反復経口投与毒性試験、6 月 26-28 日、2008、東京.
  6. 平田睦子、江馬 眞、他：Tetrahydrofurfuryl alcohol の簡易生殖毒性試験、第 48 回日本先天異常学会学術集会、6 月 28-30 日、2008、東京.
  7. 江馬 眞:(2008) OECD 神経発生毒性

- 試験ガイドラインの概説:作成の経緯と安全性評価のポイント、神経行動毒性研究会、8月8日、2008.
8. Hirose A, Ena M, et al.: Modulation of nuclear receptor cofactor recruitment by tributyltin and dibutyltin in Gal4 assays. DIOXIN2008, August, 17-22, 2008, Birmingham, UK.
  9. Ena M, et al. Developmental toxicity of dinoseb, nitrophenolic herbicide, in laboratory animals. The 45<sup>th</sup> Congress of the European Society of Toxicology, October.5-8, 2008, Rhodes, Greece.
  10. Hirata-Koizumi M, Ena M, et al.: Screening study for reproductive and developmental toxicity of tetrahydrofurfuryl alcohol in rats. The 45<sup>th</sup> Congress of the European Society of Toxicology, October.5-8, 2008, Rhodes, Greece.
  11. Hirose A, Ena M, et al. Development of in silico hepatotoxicity predicting system on sub-acute repeated dose toxicity test for industrial chemicals. The 45<sup>th</sup> Congress of the European Society of Toxicology, October.5-8, 2008, Rhodes, Greece.
  12. 生水真紀夫. ホルモン感受性癌の治療戦略. 第45回日本婦人科腫瘍学会 11月22日~23日、2008、金沢.
  13. 香川則子、生水真紀夫、他. ガラス化保存ヒト卵巣組織の姉妹間移植による卵巣機能の回復 第53回「日本生殖医学学会総会・学術講演会」10月23日~24日、2008、神戸.
  14. 高木亜由美、生水真紀夫、他. 周産期に発生した静脈血栓塞栓症20例の検討 第116回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会 11月29日~30日、2008、栃木.
  15. 尾本暁子、生水真紀夫、他. 先天性肺リンパ管拡張症の胎児超音波像. 第44回日本周産期. 新生児医学会総会 7月13日~15日、2008、横浜.
  16. 楯真一、生水真紀夫、他. 進行卵巣がんにおける寛解導入化学療法後の手術時の腹腔細胞診の意義. 第49回日本臨床細胞学会総会(春期大会) 6月6日~8日、2008、東京.
  17. 鶴岡信栄、生水真紀夫、他. 母体DICにより発症した周産期リステリア症の一例. 第115回日本産科婦人科学会関東連合地方部会 6月15日、2008、東京.
  18. 木原真紀、生水真紀夫、他. p57KIP2免疫染色は胎児共存全奇胎と部分奇胎の鑑別に有用である. 第60回日本産科婦人科学会学術講演会 4月12日~15日、2008、横浜.
  19. 鶴岡信栄、生水真紀夫、他. 血漿中インターロイキン6値上昇を伴うMirror syndromeの自然緩解 (Spontaneous resolution of Mirror syndrome associated with elevated Plasma levels of interleukin-6 (IL-6)) 第60回日本産科婦人科学会学術講演会 4月12日~15日、2008、横浜.
  20. 加来博志、生水真紀夫、他. 癒着胎盤症例に対する子宮動脈塞栓術を用いた待機的治療の有用性. 第60回日本産科婦人科学会学術講演会 4月12日~15日、2008、横浜.
  21. Murashima A, et al. Three Infertile Cases with Rheumatoid Arthritis Who Succeeded in Pregnancy by the Treatment with Etanercept. The International Society of Obstetric Medicine Conference. September 21, 2008. Washington.
  22. Murashima A, et al. Obstetric Medicine in Japan. The International Society of Obstetric Medicine Conference. September 21, 2008. Washington.

23. 村島温子: 膠原病診療の最近の進歩  
母性内科からみた膠原病 妊娠と薬  
情報センター事業と関連して 第 20  
回日本アレルギー学会春季臨床大会  
2008.6月12日~14日、東京.
24. 村島温子、他: エンブレルを投与し挙  
児に成功した不妊症の関節リウマチ  
3 症例 第 52 回日本リウマチ学会総  
会・学術集会・第 17 回国際リウマチ  
シンポジウム プログラム・抄録集  
2008.4月20日~23日、札幌.
25. 村島温子: 妊娠と薬情報センターの  
現状と展望 妊娠と薬情報センター  
開設 3 周年記念国際シンポジウム、  
2008 年 11 月 29 日、東京.
26. 坂田麻理子、村島温子、他: 妊娠・授  
乳期の薬物動態に関する統合デー  
タベース作成及び情報提供システムの  
構築 第 60 回日本産科婦人科学会・  
総会、4 月 12 日~15 日、2008. 横浜.
27. 花岡正智、村島温子、他: ヨード過剰  
摂取国である我が国において妊娠初  
期の潜在性甲状腺機能低下は周産期  
予後を悪化させるか? 第 81 回日本  
内分泌学会学術総会、5 月 16 日~18  
日、2008. 青森.
28. 簾貴士、佐藤信範、他: 「妊娠中の OTC  
医薬品の使用実態とその安全性の情  
報学的検討」第 18 回日本医療薬学会  
年会、9 月 20 日-21 日、2008. 札幌.
29. 工藤さやか、佐藤信範、他: 「妊娠女  
性に使用された抗菌薬の実態調査と  
情報学的検討」第 18 回日本医療薬学  
会年会、9 月 20 日-21 日、2008、  
札幌.
30. 小野口麻美、佐藤信範、他: 「妊婦・  
授乳婦への投与における医薬品情報  
提供と添付文書情報について」第 18  
回日本医療薬学会年会、9 月 20 日-21  
日、2008、札幌.
31. 大原玲奈、濱田洋実、吉川裕之、他:  
当院における妊娠と薬外来の現況。  
第 163 回日本産科婦人科学会茨城地  
方部会例会 (第 31 回茨城医学会産婦  
人科分科会)、2009 年 10 月、水戸.
32. Naya M, Ema M, et al. Comparable  
pulmonary toxicity study of  
different size of crystalline  
silica in rats: micron vs. nano-  
size. The 46th Congress of the  
European Society of Toxicology,  
September 13-16, 2009. Dresden,  
Germany
33. Ema M. et al. Toxicity of  
degradation products of  
refrigerants. The 46th Congress of  
the European Society of Toxicology,  
September 13-16, 2009. Dresden,  
Germany.
34. Ema M, et al. Reproductive and  
developmental toxicity of  
degradation products of  
refrigerants. The 49th Annual  
Meeting of the Society of  
Toxicology. March 7-11, 2010, Salt  
Lake City, USA.
35. Naya M, Ema M. et al. Pulmonary  
Toxicity Assessment of Multi-wall  
Carbon Nanotubes after Single  
Intratracheal Instillation in Rats.  
The 49th Annual Meeting of the  
Society of Toxicology. March 7-11,  
2010, Salt Lake City, USA.
36. Shozu M. The 9th World Congress of  
A PART (April 21, 2009 Geneva) Use of  
letrozole in PCOS
37. Kihara M, Shozu M, et al.  
Complicating preeclampsia  
predicts poor survival of the fetus  
in complete hydatidiform mole  
coexistent with twin fetus. 3rd SGI  
International Summit , November  
12-14, 2009. Sendai.
38. 碓井宏和、生水真紀夫、他: 千葉大学  
産婦人科における最近の胎状奇胎妊  
娠の取扱いー胎状奇胎の遺伝学的診  
断と続発症発症リスクー日本産科婦  
人科学会千葉地方部会 2009 年 1 月

- 31日、千葉.
39. 木原真紀、生水真紀夫、他：組織学的部分奇胎の60%はp57<sup>KIP2</sup>免疫染色により全奇胎と診断される 日本産科婦人科学会千葉地方部会 2009年1月31日、千葉.
  40. 金谷裕美、生水真紀夫、他：多嚢胞性卵巣腫大を伴った性腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍の4例 第4回千葉内分泌代謝談話会 2009年2月24日、千葉.
  41. 木原真紀、生水真紀夫、他：Placental Mesenchymal Dysplasia のp57KIP2免疫染色 第61回日本産科婦人科学会 2009年4月3日～5日、京都.
  42. 碓井宏和、生水真紀夫、他：雄核発生胎状奇胎および絨毛癌培養細胞におけるKvDMRのメチル化状態の解析 第61回日本産科婦人科学会 2009年4月3日～5日、京都.
  43. 長田久夫、生水真紀夫、他：医学生・研修医を対象とした体験学習型セミナーの実施経験－産婦人科医師確保のための取り組みとして－ 第61回日本産科婦人科学会 2009年4月3日～5日、京都.
  44. 金谷裕美、生水真紀夫、他：FSH産生下垂体腫瘍の内分泌学的診断 第61回日本産科婦人科学会 2009年4月3日～5日、京都.
  45. 鶴岡信栄、生水真紀夫、他：大学病院における”30分ルール”への挑戦 第61回日本産科婦人科学会 2009年4月3日～5日、京都.
  46. 石川博士、生水真紀夫、他：子宮筋腫におけるアロマターゼ高発現には日米間で人種差があり、その転写は多様なプロモーターにより調節される 第61回日本産科婦人科学会 2009年4月3日～5日、京都.
  47. 金田佳子、生水真紀夫、他：子宮頸部円錐切除トリーナーの使用経験 第61回日本産科婦人科学会 2009年4月3日～5日、京都.
  48. 楯真一、生水真紀夫、他：再発卵巣がんに対するgemcitabine単剤によるsalvage chemotherapyの有用性 第61回日本産科婦人科学会 2009年4月3日～5日、京都.
  49. 石川博士、生水真紀夫、他：重症免疫不全マウス腎被膜下移植法を用いた新しい子宮筋腫in vivo実験モデル 第61回日本産科婦人科学会 2009年4月3日～5日、京都.
  50. 河原井麗正、生水真紀夫、他：妊娠高血圧症候群の病型分類における妥当性の検証 第117回日本産科婦人科学会関東連合地方部会 2009年6月14日、東京.
  51. 碓井宏和、生水真紀夫、他：雄核発生2精子受精奇胎は1精子受精奇胎に比べて続発症リスクが高いか 第46回日本婦人科腫瘍学会学術集会 2009年7月10日～12日、新潟.
  52. 楯真一、生水真紀夫、他：化学療法により肉眼的に消失した卵巣がん播種病巣に腫瘍細胞が遺残しているか？ 第46回日本婦人科腫瘍学会学術集会 2009年7月10日～12日、新潟.
  53. 平敷好一郎、生水真紀夫、他：子宮体部adenosarcoma with sarcomatous overgrowthの一例 第46回日本婦人科腫瘍学会学術集会 2009年7月10日～12日、新潟.
  54. 長田久夫、生水真紀夫、他：22q11.2 deletion症候群合併妊娠の1例 第45回日本周産期・新生児医学会 2009年7月12日～14日、名古屋.
  55. 尾本暁子、生水真紀夫、他：癒着胎盤前置/癒着胎盤への戦略IABO(Intra-aortic balloon occlusion)による出血量低減の試み 第45回日本周産期・新生児医学会 2009年7月12日～14日、名古屋.
  56. 田中宏一、生水真紀夫、他：出生前羊水染色体検査にてcomplete trisomy 9と診断されたtrisomy 9 mosaicism